

政策提言書

「日本遺産の観光振興について」

令和4年3月

笠岡市議会厚生産業委員会

はじめに

本市は、古くからの海上交流の歴史があり、備中地方の産業・交通・文化の要衝として発達してきた。特に、日本遺産認定の資源となった石の文化は、笠岡諸島を始めとして、丸亀市、土庄町、小豆島町の瀬戸内海の各地に点在しているため、観光周遊ルートの設定や情報発信などを広域で行うことで、より大きな誘客・宣伝効果が期待でき、広域の地域が連携して行う観光の取組が必要である。

また、各地域の歴史文化にまつわる観光資源の見直し等を核に、新たな視点での風景や伝統・文化、行事、生活とのふれあい、人との交流を促進し、これまでの観光施策に対し厚みをもたせた施策へと切替え、ゆったりとした時間を過ごせる観光を提供したいと考える。そのため、島内外の交通インフラや観光関連施設の整備、人材育成、観光情報の効果的な発信などの離島固有の課題への対応も必要である。

取りわけ、一昨年1月頃から新型コロナウイルス感染症の感染拡大が日本でも見られるようになり、観光サービス業、飲食業を中心に甚大な影響を及ぼしている。落ち込んだ観光需要、特に、インバウンドへの対応も必要であり、将来に向けた明確なインバウンドのビジョンを持ち、本市独自のインバウンド政策の構築にも期待するが、そのためには、国内にとどまらず、海外の成功事例を学ぶ姿勢も必要である。

こうした現状を探ることで、ワーケーション(※1)の誘致や定住促進も視野に入れ、島しょ部及び陸地部も含めた、住民の所得増を目指した産業としての日本遺産の観光振興について政策提言を行うこととした。

政策提言のスタンスは、行政等の観光地の外部にある機関が企画する施策等に対する、観光地の住民の心情に重点を置き、相互の考え方に温度差が生じないことを目標にし、すべての組織が一体となって進めていけるよう機能させたいと考える。

※1 テレワーク等を活用し、普段のオフィスとは異なる場所で余暇を楽しみつつ仕事を行うこと。

(厚生労働省：テレワークの適切な導入及び実施の推進のためのガイドラインから)

目 次

1	調査研究の経過	1
2	チェックシートによる調査	2
3	笠岡諸島観光アイデア募集による調査	5
4	アンケート調査	7
5	政策提言	1 1
6	具体的アイデアの紹介	1 3
7	おわりに	1 7

※産業分野の検討委員構成「5名」

【藏本副委員長・天野委員・大山委員・奥野委員・妹尾委員】

1 調査研究の経過

日にち	活 動	内 容
令和 2 年 6 月 5 日	厚生産業委員会の開催	調査・研究テーマを決めるため 各委員から意見の募集を行う
令和 2 年 6 月 17 日	厚生産業委員会の開催	調査・研究テーマ（産業分野）を 「日本遺産の観光振興について」に決定
令和 2 年 7 月 20 日 ～21 日	チェックシート作成のため の事前調査	事前調査（真鍋島，北木島） 調査項目作成のための現地視察を実施
令和 2 年 11 月 20 日	厚生産業委員会（産業分 野）勉強会を開催	島しょ部（高島）を訪問して現状確認 等を行う（チェックシートによる調査）
令和 2 年 11 月 24 日	厚生産業委員会（産業分 野）勉強会を開催	島しょ部（北木島）を訪問して現状確認 等を行う（チェックシートによる調査）
令和 2 年 12 月 28 日	小・中学生対象のアイデア 募集を開始	笠岡市内全小・中学生を対象に「笠岡 諸島観光アイデア」の募集を開始（令 和 3 年 2 月 12 日締切り）
令和 3 年 8 月 5 日	観光客へのアンケート調 査を開始	住吉港（みなとこばなし）にアンケー ト用紙，回収箱設置
令和 3 年 11 月 18 日	島民へのアンケート調査 を実施	笠岡諸島の住民に対するアンケート調 査の実施（令和 3 年 12 月 25 日締切り）
令和 4 年 2 月 9 日	厚生産業委員会勉強会を 開催	素案について委員間討議・素案決定
令和 4 年 2 月 22 日	政策提言討論会	全議員へ政策提言（素案）の説明等
令和 4 年 3 月 24 日	委員長報告	本会議にて政策提言の報告
令和 4 年 3 月 24 日	議長に報告・提出	政策提言書を議長へ報告・提出
令和 4 年 3 月 24 日	市長に提出	政策提言書を市長へ提出

2 チェックシートによる調査

1 調査計画と実態

この度の調査において主となる現地調査は、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、2回実施できたのみで、計画していたすべての調査対象地で現地調査の実施をすることはできなかった。各委員がワクチン接種等の対策を講じ、現地調査実施へ向けて備えていたが、計画のと通りの調査ができなかったことは大変残念である。※チェックシートは別冊に記載

【調査概要】

現地調査日及び調査場所

令和2年7月26日～27日 真鍋島（以下、真とする。）

令和2年11月 高島（以下、高とする。）、北木島（以下、北とする。）

調査方法 各委員によるチェックシートに基づく調査

【チェックシートの項目及び調査結果】

1 港について

(1) 港に着いた印象

① 島らしさがでているか

- ・ 桟橋から島に入るときの歓迎を表す看板に、日本遺産が無い。また島の特徴を表現していない。（真，高，北）

② 歓迎ムードがあるか

- ・ 観光客に関心が無いようにみえる。（真，高，北）

(2) 島の紹介

① パンフレット

- ・ 待合所に総合パンフレットや、島独自のパンフレットを設置していない。（真，高，北）

② 島の案内板

- ・ 港に、島全体の観光案内版が設置されていても、老朽化し、汚れも多い。

(3) 清潔さ

① 港近辺が清掃されているか。

- ・ 乗降口は、清掃されている。（真，高，北）

② 備品が散らばっていないか。

- ・ 港の周辺に、漁具や、日用品が乱雑に積まれている。（真，高，北）

(4) 設備

- ①手荷物が預けられるか。
 - ・手荷物預かり所，コインロッカーの設置はない。(真，高，北)
- ②待合所として機能しているか。
 - ・待合所が物置のようになっている所がある。
 - ・時間で閉まっている待合所あり。
- 2 案内表示について
 - ① 統一感はあるか。
 - ・新規で日本遺産用に作られたものは，大変良い。
 - ・既存のものは，統一感に欠ける。
 - ② 古くなっていないか。
 - ・錆びたままのものが多い。
 - ③ 距離，時間は示されているか。
 - ・距離が示されていない案内表示が多い。
 - ・時間表示（徒歩）は見かけない。
- 3 観光設備について（現地調査できず）
 - ① 施設の案内は有るか。
 - ② 入りやすいか。
 - ③ 清掃は行き届いているか。
- 4 観光ルート
 - ① 観光ルートの選択肢が示されているか。
 - ・待合所には無い。
 - ・看板にも示されていない。
 - ② 休憩場所（喫茶，ベンチ等）の配置は適切か。
 - ・観光目的地までの距離が長い場所，景色の良いところに設置の必要性が見受けられる。
 - ・喫茶店が営業していないことも多い。
 - ③ 島の人との交流スポットは有るか。
 - ・未設定
- 5 宿泊施設について（現地調査できず）
 - ① 金額は妥当か
 - ② 料理はどうか
 - ③ トイレ
 - ④ 寝る環境
 - ⑤ 施設の人との会話
 - ⑥ その他

6 受入れ態勢

① 予約の要不要は明確になっているか。

・パンフレット（観光用），HP では示されているか，要確認。

② 営業日時は示されているか。

・パンフレット（観光用），HP では示されているか，要確認。

③ 施設の対応は良いか。

・施設での対応は，概ね良い。

④ 島民が歓迎する雰囲気ができているか。

・余り関心が無いように受け取れる。

7 島の産業について（調査できず）

① 現在の産業は何か。

② 今後伸ばそうとしている産業は何か。

8 島の特徴・アピール（調査できず）

（1）特徴

（2）アピールする点

3 笠岡諸島観光アイデア募集による調査

笠岡諸島の観光に関する考え，改善への取組などに関するアイデアを募集し，小・中学生の視点から観光振興に関する課題等を考察することとした。※募集用紙は別冊に掲載

【募集概要】

笠岡市内小・中学生に対し，笠岡諸島観光アイデア募集を行った。小・中学生対象ではあるが，小学校低学年の参加等も考慮し，保護者と相談して作成したアイデアの応募も可能とした。また，複数人で構成するチームでの応募も可能とした。

募集期間 令和2年12月28日から令和3年2月12日

【募集結果】

○応募数 小学生106
中学生 15（チーム4，個人11）

○応募のあった主なアイデア

①多数意見のあったアイデア

- ・島のスタンプラリー
- ・笠岡諸島 体験型ツアー
- ・季節ごとの魚を，見たり触れたりする施設
- ・島での魚料理の紹介，食事
- ・キャンプ場の整備（グランピング※2），オートキャンプ等）

※2 グラマラス（魅惑的な）とキャンプを掛け合わせた造語。

（一般社団法人日本グランピング協会HPから）

- ・島の自然を使ったアスレチック施設
- ・獲った魚を料理を指導し，食べられる場所
- ・サイクリングコース，ハイキングコースの設定
- ・サバイバル体験
- ・水族館を造ってほしい。
- ・遊園地を造ってほしい。
- ・ごみのない島にする。

②その他のアイデア

- ・SNSを使ったPR
- ・島の作業を援助してくれる旅に対して，1日フリーパスや定期券

配布

- ・ 家族&友達とチャレンジ！宝探し in 笠岡諸島
- ・ 島の風景，珍しいものの写真大会
- ・ 釣り大会 in 笠岡諸島
- ・ 白石島での白石踊り体験
- ・ パワースポット，ご利益ツアー
- ・ SNS 映えスポットの紹介
- ・ ジンクスの紹介
- ・ 船内でのそれぞれの島の紹介アナウンス，ビデオ
- ・ 島ならではの植物の紹介
- ・ 笠岡を音楽で満たす。
- ・ 宿泊，日帰りともに，パッケージツアーをつくる。
- ・ ハンモックなどで，ゆったりできる場所の提供
- ・ イルミネーションでの盛り上がり
- ・ 椿を使った小物の作成
- ・ 猫カフェ（真鍋島）
- ・ イチジクの加工品，ケーキ（六島）
- ・ 笠岡市内の学校・学年単位で，島の魅力を体験してもらう。
- ・ 漁師さんとの，漁業体験
- ・ 1つの島で，ゆっくりと時間を過ごす体験ツアー
- ・ 釣り堀体験
- ・ 土日祝日だけでも，喫茶店，カフェは開けてほしい。
- ・ 船舶会社の時刻表を，統一してほしい。

4 アンケート調査

笠岡諸島に観光に関する意識等を調査するため、アンケート調査を行った。※アンケート調査票は別冊に掲載

1 笠岡諸島観光アンケート（観光客対象）

【調査概要】

調査期間 令和3年8月5日から令和4年1月14日

調査対象 笠岡諸島に観光等で来られた方

調査方法 住吉港待合所「みなとこぼなし」に設置してあるアンケート調査票へ記入し、併設の回収箱へ投函する。

【調査結果】

○アンケート回収数 65

○各質問項目への回答 ※数字は回答数，（ ）内は項目における回答割合

（1）笠岡諸島に来られたきっかけ

1 旅行雑誌等の情報	7 (10.8%)
2 知人の紹介	8 (12.3%)
3 市のホームページ	3 (4.6%)
4 旅行会社	5 (7.7%)
5 その他	35 (53.8%)
6 無回答	7 (10.8%)

●考察・帰省で訪れた人が多い

・ホームページがきっかけの方が少ない。工夫が必要。

（2）どの島に行ったか

1 高島	6 (9.2%)
2 白石島	7 (10.8%)
3 北木島	2 (3.1%)
4 真鍋島	20 (30.7%)
5 飛島	7 (10.8%)
6 六島	5 (7.7%)
7 複数	11 (16.9%)
8 無回答	7 (10.8%)

●考察・真鍋島に行かれる方の動機として、猫が見たい、というものが多かった。しかし、思ったほどいなく、落胆されている方もいた。

・一度の観光で複数の島を楽しまれている方も多いようだ。

(3) 待合所の雰囲気 (住吉港)

1 良い	44 (67.7%)
2 普通	10 (15.4%)
3 悪い	4 (6.1%)
4 無回答	7 (10.8%)

●考察・住吉港の待合所は雰囲気は良い，という方が多いが，喫茶や販売が無いことに対し不満を持つ方も多い。

・出航直前まで，事務所のカーテンが閉じられている点に不満を持つ方が多い。

・アナウンスが少ないこと，駐車場が分かりにくい，という意見も多数あった。

(4) 港の雰囲気は

1 良い	29 (44.6%)
2 普通	18 (27.7%)
3 悪い	8 (12.3%)
4 無回答	10 (15.4%)

(5) 観光はどうだったか

1 良い	30 (46.2%)
2 普通	15 (23.1%)
3 悪い	6 (9.2%)
4 無回答	14 (21.5%)

(4) (5) について改善点，気付き点 (自由記述)

- ・島にトイレが少ない。
- ・港付近にごみや，漁具が乱雑になっている。整理が必要。
- ・食事，喫茶が不足，港周辺には特に必要。
- ・土日休日なのに，店が開いていない。
- ・従業員の態度が横柄に感じられる。
- ・立ち寄る先が少ない。(紹介されている所が少ない。)
- ・もともと風光明媚なのに，アピールが足りない。
- ・荷物預かり所，コインロッカーが必要。
- ・正確な地図のパンフレットを望む。
- ・案内標識が少ない。
- ・竹藪の浸食を，今のうちから止めたほうが良い。
- ・小さな商売人が，島を作るカギです。

2 笠岡諸島アンケート（島民対象）

【調査概要】

調査期間 令和3年11月18日から令和3年12月25日

調査対象 笠岡諸島在住の島民の方

調査方法 島しょ部の各地区公民館へ各戸へのアンケート調査票配布を依頼。記入後は各公民館へ提出し、提出された調査票は各地区公民館から議会事務局へ郵送にて提出する。

【調査結果】

○アンケート回収数 121

○各質問項目への回答 ※数字は回答数，（ ）内は項目における回答割合

（1）笠岡諸島が日本遺産に認定され、市も観光に力を入れています、どう思いますか。

1 大変期待している	30 (24.8%)
2 やや期待している	42 (34.7%)
3 あまり期待していない	22 (18.2%)
4 全然期待していない	2 (1.6%)
5 何も思わない	14 (11.6%)
6 迷惑だ	3 (2.5%)
7 その他	4 (3.3%)
8 無回答	4 (3.3%)

●考察・全体的に期待度は高いが、島内で知らない人が徘徊していたら不安、という方もいた。

・マナーの悪い人（観光客等）もいる。

・島民として参加していないのが残念。島民の意識と企画趣旨との間に一定程度の乖離（かいり）があると考えられる。

（2）あなたの島は、行政に対してどの様な改善をしてほしいですか。

※複数回答可

1 港の整備	16 (7.1%)
2 道路整備	35 (15.6%)
3 産業振興	19 (8.4%)
4 離島航路	56 (24.9%)
5 医療整備	62 (27.5%)
6 インターネット	22 (9.8%)
7 その他	15 (6.7%)

●考察・傾向として、医療整備、離島航路は特に関心が高い。島特有

の狭い道路については、高齢化、救急への対応が望まれる。

・次世代に向けては、インターネット環境の整備を心配されている。また、イノシシ対策を望む方も多い。

・市の考えが分からない、という意見があり、島民の意識と市、商工会議所等の取組に一定程度の乖離があると考えられる。

(3) あなたの島で観光客への「もてなし」はどう考えていますか。

- | | |
|---------------|------------|
| 1 積極的に行っていきたい | 16 (13.2%) |
| 2 求められたら対応 | 60 (49.6%) |
| 3 しない | 29 (24.0%) |
| 4 迷惑だ | 2 (1.6%) |
| 5 無回答 | 14 (11.6%) |

●考察・日本遺産登録後の観光に期待値が大きいですが、もてなしについては消極的である。その一因として、高齢のため対応が難しい、どのようなもてなしをすれば良いのか分からない、という意見がある。

・地域で何ができるかを話し合う必要がある。他でやっていることをそのまま真似るのではなく、やれることを十分にやっけていく事が重要である考えられる。

(4) あなたの島の産業をどう考えていますか。(自由記述)

- ・青年が働ける産業を望む。
- ・インターネット環境の整備で、ワーケーション等を進める。
- ・島の潜在的価値を掘り起こし、ワーケーション、多様なツーリズムなどによる産業の創出。
- ・生活基盤としての農業
- ・1次産業を資源とした第3次産業の推進、島での生活や漁業などの「日常」を売りとする観光
- ・現在レモン栽培に携わっている。ひじきの製造も今後も続けていきたい。
- ・島の魚を使った料理を提供していきたい。
- ・ビール醸造所の成功を期待している。

●考察・多くの回答に、高齢化のため無理である、という意見があった。しかし、昔の活気を取り戻したい、という気持ちは出ている。

5 政策提言

本委員会の調査研究から、日本遺産の観光振興に向けて次の提言を行う。

日本遺産の観光振興について

(1) 笠岡諸島の環境整備について

振興の鍵は、観光地としての魅力を高め、交流人口の足を笠岡諸島へ誘うため、交通アクセスに伴うバス路線や航路などの利便性の再構築が必要である。

このため、笠岡諸島にアクセスするための心理的負担を少なくするなど、島しょ部のみでなく、陸地部と連携した観光資源の洗い出しを行うことを提言する。

また、インターネット環境の脆弱さは、今後の発展に大きな障害となるため、早急に整備することも提言する。

- 交通アクセスに伴うバス路線や航路等の再構築
- 道の駅笠岡ベイファームとの連携
- 各地区の祭りやイベントなどとの地域連携
- 陸地部の観光資源の掘り起こしによる笠岡市全体の観光の魅力を拡大
- 自然と共存するための、キャンプ場の整備、新規設置や釣り場等の見直し
- インターネット環境の整備は不可欠であるため、地域企業の存続、観光客向けのWi-Fi環境整備、遠隔医療、前述のワーケーションの誘致を見据えた早期の取組

(2) 迎え入れ体制の対応について

笠岡市やその周辺地域で作られた素材を活用した商品の販売、レトロさを演出した喫茶・居酒屋や、街中で広がりつつあるゲストハウス営業について、古民家等の建物を使用した、訪問者のニーズに応える用途を考察し、従前からあるものに新たな商品デザインを付与した取組や、ゲストハウスを活用した取組を行うことを提言する。

- 笠岡諸島の良さを再確認し、できるだけ手を加えない前提での利便性を向上する開発
- 土地特有の土産物や限定記念グッズの開発と販売
- 宿泊、喫茶、休憩施設の整備とまちづくり協議会等の連携による自立に向けた運営

(3) 地域協働による観光振興について

市の施策と島民の意識に乖離（かいり）が生じないように，調査，対話を重ね，市と島民が一体となった観光施策となるよう努め，各地域におけるまちづくり協議会と連携し，地域資源の価値が見出され，それを活かす住民主体の観光資源の活用によって新たな価値となる「地域協働」型の観光振興を図ることを提言する。

- 各地域のまちづくり協議会との連携
- 島しょ部の観光資源等の洗い出し
- 先進地の事例紹介，専門家等の活用で，多くの手法の確保

(4) 地域内の観光資源を活用した仕組みづくりについて

人口減少に伴う課題を利点とした，空き家の再生事業などを活用した訪問者の受入れ，観光客が滞在するための仕組みの構築を提言する。

あわせて，従来からの第1次産業を軸にした，観光客の体験型観光の需要を高めることが，離島地域の活性化に繋がっていくことが期待できることから，そのための第1次産業の後継者養成事業も行うことを提言する。

- 定住促進事業との連携を含めた空き家の再生事業の推進
- 体験型観光事業の活用による雇用促進
- インバウンド観光施策の推進に向けた受入れ環境の整備や魅力ある観光資源の創出
- リゾートバイト(※3)，おてつたび(※4)等の活用による，繁忙期の労働力不足の解消

※3 観光客が多い時期のリゾート地で，短期間住み込みでするアルバイト（デジタル大辞泉から）

※4 お手伝い（仕事）と旅を掛け合わせた造語で，地域の短期的・季節的な人手不足で困っている農家や旅館などの事業者と，地域に興味がある若者をマッチングするwebプラットフォーム。（株式会社おてつたび HP から）

6 具体的アイデアの紹介

政策提言実現のため、アンケートや委員から出た具体的アイデアを紹介する。これからの取組のヒントとしていただきたい。

1 設備について

(1) 港周辺

- ・ 棧橋から上陸する際の歓迎看板に、日本遺産と、島の特徴を表現するものを設置することで、笠岡諸島全体の統一とその島独自を表現できるのではないか。
- ・ 待合所は、情報収集、時間待ち、休憩、手荷物預かり（コインロッカーを含む）が機能をしているかチェックし、整備の必要がある。
- ・ 待合所周辺の乱雑さの解消。
- ・ 島全体の大型案内看板の改修。

(2) 周辺設備

- ・ 島を代表する観光名所まで距離がある場合や、景色の良い所に自然石や、ベンチの設置が必要と思われる。
- ・ 北木島では民間の設置したトイレがあるが、全体的にみて公共トイレが不足している。
災害等も踏まえ要所に設置が必要である。
- ・ 喫茶、お休み処として、島内の宿泊施設の協力はもちろんであるが、民家における有料お休み処の設置の検討。
- ・ 案内板を統一し、距離だけでなく、勾配等を考慮した徒歩での所要時間目安も記載する。

2 観光について

(1) 新たな観光の発掘

現在の観光は主に歴史的な物を主体としている。一部では、シーカヤックや地引網等のアクティビティも展開しているが、近年の傾向として観光地での生活のふれあいや体験、また自然を満喫したり、現地の人との交流が増えてきている。

基本的な考え方として、豪華でモダンな設備の必要性は認めるものの、新規に喫茶店等を建設するのではなく、まずは民家の縁側等を活用し、ニーズの拡大に伴い規模を拡大していくほうが良く、あるがままの状態を綺麗に整備することが必要なのではないかと考えられる。また、島の人との交流の場の設定も観光資源となりうる重要な要素である。

①新規観光スポット

- ・島しょ部と陸地部の人が協力し、インスタ映えする季節ごとの景色の発掘。
- ・地域との交流スポットについては、喫茶店のほか、民家における休み処、地域おこし協力隊との交流（活動内容や来笠しての印象）。

②季節ごとの素材（主に魚介）の発信，食事，釣り情報。

③地域活性における，リゾートバイト，おてつたび等の活用。ただし，一時しのぎの人手不足解消ではなく，持続的な活動を支えるための活用。

④利用者は限定されるが，景色の良い土地で国土交通省の推奨する「ワーケーション」導入による人口増も視野に入れた施策展開。

⑤島の観光だけでなく，道の駅や陸地部の紹介されている観光資源以外に，近年の観光（旅）に合わせた山や川の自然体験，生産体験，キャンプ，オートキャンプ等により，笠岡市全体が選択肢の多い観光地になるよう努める。

⑥近隣の観光資源と結び付け，笠岡市の弱点を補えるよう，地域連携が必要。

3 島の産業について

観光振興は，基本的には島内の人に利益をもたらす仕組みを誘導していかなければならないと考える。外部の観光ツアーや島グッズ(弁当も含む)で，島民の収益と無関係になってしまっただけでは，観光における島民の「おもてなし」が不可能と考えられる。

外部の頑張りとは，島内の産業をリンクさせ，一体となった方向で進める点に留意しなくてはならない。

(1) 宿泊施設

- ・島内の宿泊施設は全体的に老朽化している。これは別の考え方からしたら「さびれた雰囲気」をかもしだしている，ということ逆手に取っても良いのではないかと感じる。しかし，寝る環境とトイレは日頃の生活様式のレベルから落としては，印象を悪くするものである。これについては，補助金制度を設けても良いのではないかと感じる。
- ・四季折々の献立を紹介することも必要。
- ・宿泊料金については，あまり安い設定にこだわらない方がよいのではないかと感じる。また，段階的な料金設置も検討してはどうだろうか。

- ・宿泊客とは、出来るだけ談話時間を確保し、地域の情報発信に努めることも重要。

(2) 喫茶店、お休み処

- ・モダンな喫茶店の役割を果たす施設が各島に1つでもあるのが理想だが、多額の経費が必要であるため、当初は民家を改装して数を増やしていく事から始めるのが無難であろう。
- ・民家を利用した「お休み処」では、縁側等を利用し、有料で簡単な飲み物、茶菓子の提供と、談話の提供なら高齢者にも可能と考えられる。営業日は、可能な近隣と協力して設定し、営業日には旗を掲げるなどして目につくようにするのも手法の1つである。ニーズが増えれば、改装などで徐々に対応していく方が、必要最小限の投資にできると考える。

(3) 農業

笠岡諸島は昔から、品質の良いみかん、さやえんどう、花を生産してきた実績がある。

- ・国産レモンに取り組んでいる島があるが、ある程度の規模が無いとブランドとして収入を確保する事は困難である。また、レモンだけに頼るのではなく、栽培のノウハウを持っている早生みかんや、晩柑の高級品種である「せとか」等の栽培も行うことで、収穫時期の長期化により、収入の安定につながる。
- ・野菜については、単価の高いさやえんどう以外に、島内の宿泊施設、喫茶店等の需要に合わせた生産体制を整えることで、需要と供給を島内でできるだけ賄うことも可能であると考えられる。また、島弁への提供も行う。

(4) 漁業

近年は、漁獲量が減少しているが、観光用引網、船での漁体験、料理教室、漁師飯等の産業も見逃せないと思われる。魚を獲るだけでなく関連事業について、先進地等を参考に広げることで活路を見いだせる可能性も考えられる。

- ・加工品：鯛の浜焼き、デベラ、タコの寒干し等は近隣でも行っているが、品質は良いものである。島の特徴を活かしたキャッチフレーズのもとに、産地直送なども可能性は高いと思われる。

(5) 商業

①既存店の活用

- ・島内にある商店の商品は値段が高い場合が多いが、これは船賃

や客数が少ないことに起因していると考えられる。しかし注文が多ければその分安くできることも考えられる。配達もあるので利用を増やし、商店の存続に寄与できるようになってほしい。

- ・ 農業分野， 漁業分野の特産品の土産物はもちろんであるが， 島ごとのキャラクターグッズ（他の島で販売しない）や， ルート設定の有料観光案内（島内の土産販売所も含む）等， 無料から有料化しても価値あるものを生み出す努力が必要である。

（6） 地域の祭り， 催し物

笠岡諸島には， 白石踊りをはじめ， 様々な祭りや行事がある。また， ユニークなものとして， 島の運動会もある。今後は， 大島地区の収穫祭のようなものも加えていき， 1年間のプログラムを作成して観光客の集客を図り， そこでの収益も計算の上行うことが， 島全体の潤いにつながる。

7 おわりに

結びに、今回の調査研究において明らかとなった課題を提起する。

1点目は、観光により、島全体が収益性の高い事業展開を目指すことである。その計画を実行するための手段としてのリゾートバイト、おてつたび等の活用をし、最終的に現役世代が定着できる産業を育てることが必要である。

2点目は、急激な変化にならないよう配慮することである。緩やかな発展を目指していくこと、島の良さを残しながら発展を加えていく事が笠岡諸島には向いているのではないかと思われる。現地の人との意思疎通を図りながら一体となって進めていかなくてはならない。

今後は、現地調査、島民との話し合い、陸地部の観光資源の発掘などの課題を残している。引き続き行う必要があると考える。